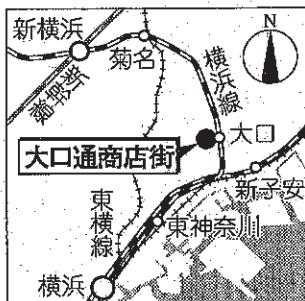


横浜・大口通商店街



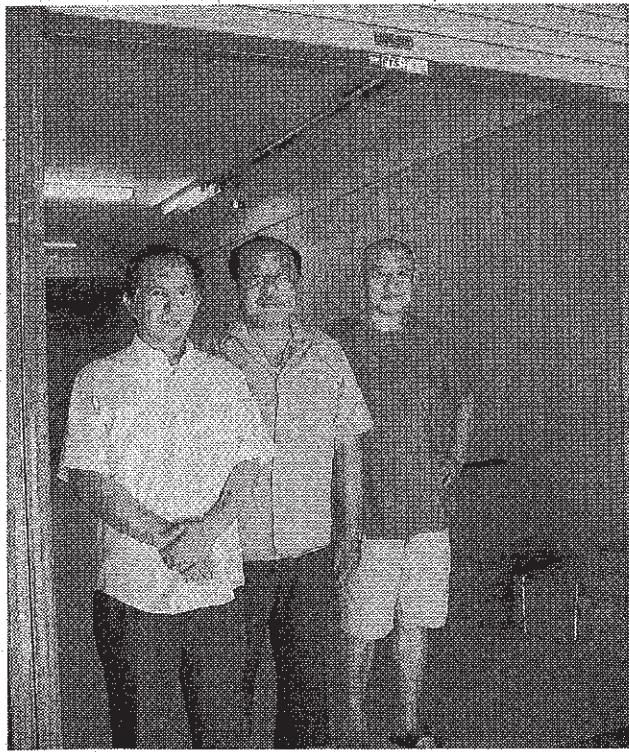
JR横浜線大口駅西口に広がる同商店街。歴史は古く、2009年には協同組合設立60周年を迎えた。ただ、近年、商圈内にスーパーなどもあり、最盛期（昭和40～50年代）には130ほどあった店舗も現在は90にまで減少。空き店舗も10軒近くあるという。

協同組合（荒川実理事長）が、空き店舗を有償で借り、商売に意欲のある人に貸す試みを始める。家の賃の一部や水道・光熱費を負担するほか、内部の清掃など商売環境の整備にも努める。「大口通をシヤツター通りにしたくない。商売人を呼び込み、街を活性化させよ」。強い思いが、関係者を動かした。

岡本
昌子

シャッター通り防げ

新規開業を支援



商店街として借りている物件の前に立つ荒川さん（中央）。右は坪倉さん

横浜市神奈川区の大口通商店街

空き店舗借り安く提供

「新しい人が店を構えれば、新しいお客様が来て街がにぎわう。地域に根付く気持ちのある人に来ても、うらいたい」と理事長の荒川、「この街が好きだから」と話している。

が今月から始めた県内や地 方の特産品を販売する企画と運動したり、といったことも視野に入れている。

街を担っていく人材にお金をかける体力のない商店街に厳しく、本当に必要な、

という。担当者は「財政的

とで、貸す側、借りる側双方に安心感を与える。一方に安心感を与えたいたい考え方だ。物件は約90平方㍍で、地域住民が将棋などを楽しむ「交流サロン」の隣にあります。そこで、賃貸する側の立場から見ると、賃料を支払う側の立場から見ると、どちらも喜んでいただける構造です。

渡し役」を目指すもの。同様に、協同組合が借りた物件を「できるだけ安い家賃」で提供。間に商店街に入る条件は商店街にある業種も、「活性化のためには何かさん」としての成功事例が、そ、とにかく元気になつてもらいたい」と「濱の市」の坪倉良和さん、荒川さん

咸臨丸の魅力語り合う

横須賀の関係者も

北海道木古内町の臨丸全国まちづくト」が24日、同町で没してから)とし、年となるのを記念者ら約200人乗組員を数多く香川県や、太平洋に出た港がある樺どからは当時の闇や謎に包まれた沈孫が顔を見せた。について語り合い開かれているイベた。介もした。

幕末に勝海舟ら
太平洋を往復した
られる軍艦「咸臨」

北海道で サミット

岐阜県全国まちづくりサミット